



台風が強くした日韓ロータリアンの友情

第9回 日韓親善会議
2007年9月7～8日

台風とともに北上

9月7日、折悪しく上陸した台風9号の影響で、空路、陸路ともに交通機関が欠航、運休、遅延と、大幅に乱れるなか、多くのロータリアンが青森に向かいました。ロータリアンというのは、困難に出遭うと力を発揮し、目的に向かって、的確に状況判断をしてがんばれる人々なのだ、ということあらためて実感しました。

多くの飛行機が欠航し、新幹線に変更した人もいましたが、その東北新幹線も一部が運休になり、また運行している列車も、八戸には大幅に遅れて着くという状況が終日続きました。八戸から青森に向かう特急も到着時刻がはっきりせず、ホームにはたくさんの方があふれ、その中にロータリアンの姿もありました。誰もが先を急ぐ身ですが、皆、冷静に列車の到着を待っていたのが印象的でした。

台風の影響を受けたのは、日本のロータリアンばかりではありません。韓国のロータリアンは、慣れない日本での移動に何倍も大変な思いをしながら青森に到着したのだと思います。

会議がスタートしたときは空席が目立ち、スピーチをする予定の人まで到着していない状態。主催者側のロータリアンは、とても気をもんだことと思います。それで

も時間がたつにつれ、少しずつ埋まっていく席を見て、そして、晩餐会のときには埋め尽くされた会場を見て、ほっとすると同時に、ロータリアンのパワーと友情を感じたことでしょう。最終的には約700人が集まり、欠席者はたった30人ほどだったと聞きました。

日韓の活動の話題が満載

さて、第1日の本会議は、第9回ロータリー日韓親善会議議長の今井鎮雄氏の点鐘で始まり、来賓紹介、祝辞、歓迎の辞と続きました。第3630地区パストガバナーの李東均氏が韓国のロータリー現況報告をして、予定より少し早めの閉会となりました。

懇親会の話題は、台風のなか、どのようにして青森まで来たのか、ということ。そして、口々にこの大変な状況で、これだけの人たちが集まったことへの驚きを言い表し、ロータリアンのすばらしさをたたえていました。

第2日の本会議は、ロータリー世界平和フェローによるスピーチやGSEに参加した感想、新世代交流、姉妹クラブの交流など、いずれも日本と韓国のロータリアンたちの活動や、それにかかわってきたロータリー家族からの報告など、具体的な活動状況が紹介され、両国が共に携わってきた活動の多さ、関係の深さを再認識することができたと思います。

残すべきは心ある私

今回の会議で一番参加者の心を動かしたのは、米山記念奨学生、金静希さんのスピーチでした。彼女の祖父母は資産家で、貧しい人々を助けることに熱心でした。しかし、父親が親しい友人にだまされて財産を失い、そのショックで倒れてしまいます。祖母もアルツハイマーになり、誰も寄り付かなくなってしまいました。彼女は、自分の家族よりも他人の世話をしてきた祖父母に対して、それは間違いだったと確信します。

「自分と自分の時間を削ってまで人々を助けたって、その人々の感謝する気持ちはどれくらいだと思う？ 葬式に何人が来た？ 人々はお金があるときだけ、自分の利益になるときだけ、自分が助けられるときだけほほ笑んでくれるのよ。もし、おじいさんが人々を助けず、うちがまだ金持ちだったら、人々から背を向けられることはなかったのではないかな。おばあさんが人々を助けたって、私たち家族に結局何が残ったと思う？」

しかし、米山記念奨学生になってロータリアンを見ていて、彼女はその考えが変わったのです。日韓の歴史的認識をめぐる問題によって韓国で反日感情が高まっているときに、「自分たちに石を投げている国の学生たちに、なぜ奨学金を支払わなければならないのか」という声が出たのを知り、祖母の葬式のときの自分の気持ちと似ているかもしれないと思いました。

しかし、そのとき彼女はあることに気づきました。「祖父と祖母、そして多くのロータリーの人々は、口では直接言わなくても、是非を問う前に、損得を考える前に、私に心をもつ人間になりなさいということをお教えたのではないのでしょうか。残すべきは心ある私の存在だったのに、それに気づかず、ただ目に見えることだけに気をとられて、感謝しない相手だけが悪いと思った私という人間はなんて愚かだったのか」

同じ顔、違う言葉

写真にある顔は、その人を知らなければ、日本人なのか韓国人なのかよくわからないと思います。実際に会ったとき、戦後生まれのロータリアンが多くなってきた昨今の状況で、お互いの言語が理解できずに、この会議も英語が共通語になってきました。言葉が十分に通じない場面もありますが、共に活動をし、多くのクラブが姉妹クラブとして親交を深めてきた歴史を背景に、協力して実施する活動はこれからますます多くなっていくことでしょう。次回、韓国での再会を約束して、すべての日程が終了しました。

取材『友』編集長 二神 典子

